

篠田桃紅美術空間からのお知らせ

第37回岐阜県移動美術館

「来た、見た、感じた！現代アート」展

【照会先】 篠田桃紅美術空間（市役所7階） ☎ 23-7756

岐阜県美術館は、1982年の開館以来、岐阜県ゆかりの作家、ルネコレクションを中心として、幅広い分野で美術史上重要な作品を数多く収集しています。また、開館2年後の1984年より、優れた収蔵作品をより多くの県民に鑑賞していただくために、県内各地で移動美術館を開催しています。

今回の移動美術館では、岐阜県美術館所蔵の1960年以降に制作された国内外の絵画、彫刻26点を展示します。超絶技巧を極めた作品、思索的・哲学的作品、トリックアートの陶作品など、さまざまなジャンル、技法の作品を幅広く紹介し、子どもから高齢者まで見て楽しめ、現代美術のおもしろさを体感できる展覧会を開催します。



掲載図版 辰野登恵子「NOV-86-15」1988年

- ◆ 会期：11月6日（火）～12月24日（月・振休）
- ◆ 入館料：高校生以上300円、中学生以下無料
- ◆ 休館日：月曜日（12月24日）（月・振休）を除く、休日の翌日（土・日・休日を除く）
- ◆ 開館時間：午前9時～午後4時30分

ひとひと
女と男

ともに自分らしく生きよう



vol.98 参画“ことば”をもう一度

これまでこのコーナーで紹介された言葉から、身近になってきた“ことば”をもう一度整理しますと、それらは「イクメン」や「男性の育児休暇」などがあります。これらの実態はどうなのか、標語風・川柳風の短いフレーズで考えてみたいと思います。

まず「イクメン」ですが、
「妻も働く若いパパ、参画学んで家事手伝い」
 今ではこの言葉も広く認知されました。若い世代では、既に当然のこととして理解、実践されています。

そして「男性の育児休暇」についてですが、
「育児を取りたいパパは多けれど、リストラ怖い職場の空気」

現状はまだこのようなことではないでしょうか。

夫が育児休暇を気軽に取得できれば、妻の子育てや家事への負担が減り、どれだけ心身ともに救われることでしょう。

男女共同参画社会を実現するために、これからはワークライフバランス（仕事と生活の調和）が最重要です。

「仕事と家庭どちらが優先、どちらも大事な若いパパ」
 イクメンがそうであるように、時代が変われば社会が変わり、個人の考え方や見方、そして意識も変わってきます。そうなることで、皆が願う男女共同参画社会の実現に、一步一步近づいていくことと思います。

「子育てと仕事の両立できる世に、変わる環境待ち望む」

さんかくサポーター <J>

照会先 さんかくサポーター事務局（市民協働課内） ☎ 23-6831